

# 令和2年度 上田市立菅平小学校 グランドデザイン

## めざす子どもの姿

- ① 自分の良さに気づき、友だちの良さを認め合える子ども
- ② 他者への感謝の気持ちを持ち続ける子ども
- ③ 自ら考え、判断し、行動できる子ども
- ④ 伝え合いを通して考えを深める子ども
- ⑤ 体験を通して心身を鍛える子ども
- ⑥ 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども

## 学校教育目標

# 郷土を拓く大地の教育

《共生》 《自立・自律》 《創造》

## めざす教師像

- ① 自らが子どもの良さに気づき、伝え、励ます教師
- ② 優しく・厳しく、子どもを導く教師
- ③ どの子にも分かる、楽しい授業を創造する教師
- ④ 子どもと共に汗を流す教師
- ⑤ 地域に根ざし、地域と連携する教師

## 本年度の重点目標

### (1) 互いの良さを認め合い、前向きに取り組む学級づくり

〈重点活動〉

- ① 相手意識のある「あいさつ」を心掛け、発達段階に応じた人との関わり方やコミュニケーション能力を身につける
- ② 自分を素直に表出し、主体的で対話的な学習の素地となる学級集団づくり

### (2) 友と伝え合い、自ら進んで学習する子どもの育成

〈重点活動〉

- ① 基礎学力や体験的学習が主体的・協働的な学びにつながる「めりはりのある単元展開」の創造
- ② 個別の指導計画による個に応じた“分かりやすい授業”“指導のあり方の追究”を通して、課題を見つけ、解決に向けて実行できる授業づくり

### (3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる

〈重点活動〉

- ① この地に生きることの喜びを実感するために、地域との交流、体験を仕組む
- ② 生活科、総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、地域の農産業や観光産業を知る

## 学級活動の重点

自らの良さに気付いたり、互いの生活の仕方や考え方の良さを認め合ったりしていけるような体験活動や話し合い活動を進める。

## 道徳教育指導の重点

友だちの姿に道徳的価値を見だし、共に認め合えるための指導。価値観の違いに触れ、多面的・多角的視点を涵養するため、題材や場面の工夫をし、考え議論する道徳を行う。

## 人権同和教育指導の重点

研修を通して職員自身の人権感覚を高め、子どもの心に迫る指導の研究を深める。参加型体験学習を取り入れ、お互いに認め合い解決の方向が見える明るい人権同和教育を進める。

## 特別支援教育指導の重点

一人一人の特性や教育的ニーズを全職員で共通理解し、保護者や関係機関と連携して、その子に適した指導を行う。個別の指導計画に基づく教育的支援を行う。

## 生活・生徒指導の重点

小中併設校であることの利点を生かし、一人一人の子どもについて、小中の全職員が理解し、9年間を見通した指導に努めるとともに、一人一人の個性の伸長を図る。

## 全校研究テーマ

一人ひとりが目的意識を持ち、自分なりの「学び方」を身につける子どもの育成

### (1) テーマ達成に向けて

- ① 「見とけたい子どもの姿」から授業を構想し、毎時間の「ねらい」を明確にすると共に、教材・発問・板書の工夫をする。
- ② 子どもの実態を把握した上で、授業の中で個に応じた支援をする。
- ③ 全校研究グループを計画し、互いに学び合う機会を設ける。
- ④ 子どもの実態やちょっとした発言を大切に、自立・自律につながる支援へとつなげる。(職員間の共有を大切に)
- ⑤ 小テスト・ドリル学習…モジュールの時間を活用して、既習内容の定着を図る。
- ⑥ 宿題

低学年: 日記、漢字、算数、音読を毎日の課題とし、既習内容の定着を図る。  
高学年: 自主学習の割合を増やし、学習を自分で決定できるよう支援していく。  
(「つむぐ」の活用)

### (2) 子どもにつける力がついたかどうかを評価するための検証方法

- ① 個別の指導計画を定期的(前・後期)に見直す。
- ② 全国学力・学習状況調査、学力検査(NRT)、PDCA調査における正答率や結果から学力の定着をみて、指導方法を検討する。
- ③ 子どもの無記名授業アンケートを実施して、結果を職員会で検討し、指導の振り返りと共に授業改善を行う。
- ④ 毎時間の授業の終わりに、分かったことを自分のことばでまとめさせたり、発表させたりするなどして評価する。

### (3) 教職員の指導力向上に向けた校内外研修

- ① 校内研修として二つのグループに分かれて研修を行う(一人一公開)。
- ② 授業力向上のために「授業構想シート」を作成し、授業実践をする。
- ③ 職員会議で「子ども理解」の時間を設け、個に応じた支援を検討する。
- ④ 困難を抱えている子どもへの支援について、指導者を招き職員研修を行う。

## 総合的な学習の時間の重点

体験活動を多く取り入れ、探究的な学習を通して問題解決を図れる場を設定し、友だちと考えを発表し合っ、共に追究していくようとする態度を養う。

## スキー科

地域の特性を生かし、「めあてをもち継続して取り組む」「達成感や充実感を感じて取り組む」「感謝の気持ちを持ち、マナーを守り、実践する」ことを通して、心身ともに健全でたくましい子どもを育てる。

## 英会話科

英語でのコミュニケーション活動の楽しさを体験し、言葉や文化に対する興味関心を高める。

## 特別活動指導の重点

[児童会] 日常的活動、奉仕活動、行事的活動の三本柱にめりはりをもたせ、特に当番活動等の日常活動を徹底させる。また行事活動においては、独自性かつ創造性のある活動を計画できるようにし、委員長会を定期的に関き、横のつながりをもたせる。

[学校行事] 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。

# 子ども理解

## 本校の強みと課題

- 1 開拓の歴史に立脚した農業と観光という独自性のある地域
- 2 厳しさと豊かさを併せ持った大自然に囲まれた環境
- 3 少人数学習集団(気心の知れた仲間⇔固定化された人間関係)
- 4 小中連携による9年間を見通した教育活動
- 5 学校への協力を惜しまない、保護者・地域(信州型CS「TEAM SUGADAIRA」)